朝日新聞　２０１６年８月３日　朝刊　１ページ　東京本社

天声人語

中学2年生の心のまま、生きることができれば――。メディアアーティストの八谷和彦さんが、仕事にあたって重視していることだ。「中2病」といえば自己陶酔などを揶揄する言葉だが、逆手にとって思いのままに行動することを強調したいのだろう▼例えば映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」シリーズが好きだからと、作中に出てくる未来の道具をつくったことがある。空中に浮くスケートボードを、ジェットエンジンを使って実現した▼さらなる挑戦の舞台が、宮崎駿監督のアニメ「風の谷のナウシカ」であった。主人公の少女ナウシカが操る一人乗りの飛行装置「メーヴェ」をつくろうと決めた。中2ならぬ高校生で見た映画の具象化である（『ナウシカの飛行具、作ってみた』）▼構想から13年、できあがった小型飛行機が初めて公開飛行をしたと、朝日新聞デジタルにあった。動画を見ると、尾翼のない不思議な乗り物が北海道の空を舞う。ファンでなくても、心ひかれるのではないか▼ナウシカが活躍するのは、文明がほぼ滅んだ後の世界だ。滅亡をもたらした兵器「巨神兵」は核兵器の隠喩であろう。その巨神兵を復活させて操ろうとする大国のむきだしのエゴが描かれる▼物語でナウシカは争いを避けようと奔走する。「『希望』という言葉を、直接訴えるのではなく、どこかでそれを感じさせるようなものを作ろう」と八谷さんは書いた。鳥のように飛ぶ姿に、平和な日常への思いが込められている気がした。

2016・8・3

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。